

## 第1回中心市街地のグランドデザインを考える分科会記録

日 時 平成21年7月24日(金) 20:00~21:00

場 所 小田原箱根商工会議所 4階 相談室

経 過

佐谷アドバイザーより、平成19年度に小田原TMO内に設置されたタクスフォースの概要とそこが挙げた提言内容について説明がされた。

タクスフォースの提言書の内容を全て取り入れることは難しいので、民間意見として捉えることとした。

この勉強会(分科会)において出た意見については、中心市街地活性化協議会の通じての組織であるため、民間意見の一つとして、全てを基本計画に盛り込めないまでも参考意見として受け止められる(小田原市職員よりその旨回答)。

タクスフォース及びその提言書、新小田原市中心市街地活性化基本計画(案)の概要と状況について、佐谷アドバイザーと小田原市職員により説明がされた後、下記の通り意見交換がされた。

### <一般市民へのコンペについて>

- ・コンペをやってしまうと、今までの上乘せで終了してしまう恐れがある。
- ・コンペの実施は難しい。意見を聞いてしまうと(視点が)広がりすぎてまとまらない。

### <エリアについて>

- ・現在保留になっている「中心市街地活性化基本計画」の内容は我々がこれからやろうとする協議のベースになるのではないか。(次回市職員より持参されることとなった)
- ・国から言われている中心市街地活性化のエリアは概ね100haが目安とされている。(市職員より)
- ・国の概念と市民の概念は異なるもの。我々が考えるエリアが行政で考えるものよりも小さかったとしても、エリアの一部という位置づけで考えていけばよいのでは。
- ・国に対する基本計画というのは補助金ありきのものであって、真の中心市街地活性化とはいえない。それに左右されてはいけない。
- ・補助金を得ることも重要な手段ことだと思ふ。
- ・城郭の範囲としてそこから絞り込んで行ったらどうか。
- ・街なか居住をこの中に考えていくのだということになってしまうのは違うのでは。景観の規制だって厳しくせざるを得ない。
- ・景観の規制についても、規制をする理由が明確であれば良いことではないか。
- ・「水と緑」については小田原全体の大きな範囲のもの。意識付けが良いのでは。
- ・エリアについては「面」として捉え、そこから外れるエリアについては「線」で結んでいけばよい。(面に含めなくて良い)
- ・中心市街地170haは広いのではないか。感覚としては小田原城と小田原駅が核ということで話を進めていったら良いのではないか。観光客の目線で街をデザインするときに、住宅地が入ってしまうのは違和感がある。
- ・ここでやろうとしているのは、「ここをどうデザインするか」「デザインしたら周りに

どう影響するのか」「周りの状況がここにどう影響を及ぼすのか」を見るというのが都市計画的な考え方。ターゲットにしようと思うところがあれば、そこをピンポイントで見るのではなく、そこから範囲を広げたエリアからターゲットを考えていくやり方のほうがよいのではないかと。

- ・小田原は現在、お城もそうだが、生業のことが観光になっている。城下町で宿場町、その中で地産地消されていた。単に物を売るというのではなく小田原らしさを演出している。伝統的な産業でありエリアだが、その活性化が抜けているので(基本計画に盛り込まれた)170haというエリアになってしまっている。
- ・観光についても歩くポイントを繋げると長く歩ける。実際に小田原駅⇒小田原城⇒菜の花(休憩)⇒籠常⇒かごせい⇒南町⇒わらべ菜魚洞⇒早川駅を歩いた。
- ・小田原駅周辺に「これぞ小田原」というものが見られない。
- ・観光といえど、もうお城を見て云々ではない。1号線に点在している名所に行かせるための動線をどうしたらよいのか考えるところ。
- ・周遊拠点を魅力的にしないとそこまで足を伸ばさない。
- ・エリアに入ってこない大工町や中町に昔からの佇まいの邸宅や低層住宅がある。鎌倉のような、少し路地を入ったところに素敵なお店があるような演出が南町辺りにできないものか。中町～寿町までの範囲で開発できないか。そういう意味で食住一致のまちが増えれば可能性はある。低予算で小田原らしさを演出できる場所。小田原駅前でするとデベロッパーを入れる等、膨大な予算が必要になってしまう。緑と水の演出もできる。
- ・もっと人が歩かないと活性化しない。そのためには小田原の魅力や情報が(駅を出て)すぐの所に発信されていないといけない。
- ・将来の小田原像を見据えないといけない。どう仕掛けるかは後にしても、何か仕掛けられたら面白いねという道やエリアなど、既存する魅力の中に2つ3つ加えていければ面白いのでは。(青山のキャットストリートのような)そういうところを見つけられれば、今回のグランドデザインとしては良いのではないかと。
- ・魅力のあるところへはどんどん引っ張っていかなくてはならない。まずそこに降りてもらおうという作業が現在は非常に不親切。
- ・路地の面白さや、駅の玄関口はどう考えたらよいのか。
- ・小田原の街なかには昔は水路が多くあり緑もあった。現在は蓋をしたり伐採してしまった。また地図上でも「用水路」だったものが「排水路」になってしまった。小田原の財産を駄目にしてしまった過去がある。
- ・韓国のソウルのように、道路にしたところを再び川に復活させた例もある。労力としては大変だが、見直される時代となっている。
- ・提案として、そういうものを復活させるというのも一つのグランドデザインになる。
- ・金沢の例にもあるように、車の横に復活させるのではなく、人が歩く横に復活させないと。交通政策も必要になり権限の範囲等、一筋縄ではいかないが、調べることや可能な範囲まで実行することも価値はある。
- ・水路を塞いだことについても当時は安全面からなどもあったのだろう。
- ・コアなことについては、地域連絡協議会等の地域で話し合っただけであれば。その他に、全体を見たイメージ作りを最終的にしていければ。話の取り掛かりとして何からやって

いけばよいのだろうか。

- ・既存する都市の上に、もう一度何かをやるかといった場合には、まずエリアを決め、その箇所を綿密に調査することから始めないことには何もできない。調査をして各所の特色付けをし、どういうポテンシャルがあるのか、そのポテンシャルがどのように繋がっていくのか、点から線、線から面へと広げていくのが作業。一部が全体に、全体が一部に影響するので、やはり全体を見ていく、そういったことでグランドデザインを描こう。こういったところが明確に見えてきますよね・・・といった話になる。
- ・(明治時代の小田原の街並みについて解説)。この時代からの商売等の痕跡が現代も残っている。道・水路等、歴史を辿ると(昔の地図の)活かし方というの色々である。明治時代にお城を幸町と緑町に分断をしてしまったことにより、旭丘高校ができるに至ってしまった。明治時代の都市計画が現代に害を及ぼしてしまっている。そのことを含めて考えてみても良いのではないかな。
- ・東海道とIC付近の使い方によって、その周辺の活性化もでてくるのでは。(若い人が住みやすくなる)。山王川と酒匂川の間地域は住みやすいエリアになる。駅に近く、道路にも近い。駅まで徒歩500mの圏内で中心市街地に好影響を及ぼすのではないかな。
- ・Bチームと違う点として、図とかを用意してもらって皆さんで絵を書きながらやったほうが、口で言うよりやりやすいのではないかな。問題は成果品にしようとしたときに誰がまとめるのか・・・といったこと。(誰がどうするのは後日検討)
- ・歴史的な背景を踏まえた好い町に作り変えられるのであれば、今住んでいる人も誇りを持って、訪れる人にもまた訪れたい町になるのではないかな。
- ・スーパースターが自由自在にできるエリアを作れば話題の中心になるのではないかなと思う。
- ・まちづくり条例も施行されることだし、都市計画も含めての条例に踏み込んでいくことができたならグランドデザインも活かせるのではないかな。
- ・貨物ヤードの中に「三の堀」が入っている。そこから南側は大手前広場のイメージで作られたもの。その後大手門は時代の流れの中で時計回りに回っているので、新大手前広場のイメージでやってみては。

以上

<当日出席者> \*順不同・敬称略

岩瀬照子、櫻井泰行、朝倉正行、小野意雄、金井俊典、平井義人